

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



「あの鳥はなにかな」うらかな早春の日、淀川べりでバードウォッチング(3頁に関連記事)。

Contents

- GEN 第15回会員総会のご案内 P 2
- GREEN なんでも勉強会報告 P 2
- 変貌する大同の市街地 P 4

2009.3

126

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 第15回会員総会のご案内

GENが大同で緑化協力をはじめた17年前、中国の環境問題はほとんど知られていませんでした。中国も、「環境問題より経済成長が重要」という姿勢でした。そんななかではじめた小さな民間団体の緑化協力事業は、現地での歓迎と、会員をはじめとする協力者の支持を受け、少しずつ拡大しながらこれまで継続してきました。

世紀の変わり目頃から中国は本腰をいれて緑化に取り組み、大同にも大規模な緑化プロジェクトが次々に立ち上げられました。

それらと比べると、GENの協力プロジェクトはごく小さなものでしかありません。しかし、自慢できる特長があります。まず優秀で熱心な地元スタッフ。そして本数を植えるだけではなく、技術面の協力。環境林センターでは苗

畑や見本園をつくり、実験林場“カササギの森”もつくりました。しかし、なによりユニークなのは霊丘自然植物園だと自負しています。

10年目をむかえた霊丘自然植物園。初期は草もまばらで、遠目に見える樹木はほとんどありませんでした。いまでは日本の里山にいるのではないかと錯覚するぐらい、草も木も育っています。

立花代表が就任時に「植物園つくるんやったら代表をひきうけましょ」といわれた、こだわりの植物園。自生樹種の保全、造林樹種の多様化、技術者の育成などいくつもの役割をもち、環境林センターとならんでGENの重要な緑化協力拠点です。生みの親の立花代表、昨年春からはじめた植生調査の陣頭指揮をとる前中顧問に、高見事務局長もくわって、その意義・役割と現

時点での成果を語り合う記念シンポジウム、おおいに楽しみにしてください。

【緑の地球ネットワーク

第15回会員総会】

●日時：6月13日（土）13時30分～16時40分

○記念シンポジウム：13時30分～15時

『霊丘自然植物園の10年～構想とこれまでの成果』

立花吉茂さん（GEN代表・花園大学客員教授）

前中久行さん（GEN顧問・大阪府立大学大学院教授）

高見邦雄（GEN事務局長）

○会員総会：15時20分～16時40分

●場所：大阪市立弁天町市民学習センター（大阪市港区弁天1-2-2-700 オーク2番街7F Tel.06-6577-1430 JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅より直通路あり）

●総会終了後の懇親会は調整中です。

GREENなんでも勉強会

これから楽しみ！黄土高原の植物の成長報告

大塩 春治（GEN会員）

1月28日、大阪市立弁天町市民学習センターで開かれたGREENなんでも勉強会には50名が集まりました。少しむずかしいところもありましたが、霊丘自然植物園の継続調査の意味など、興味深い内容でした。

昨年、私は春のワーキングツアーに参加して霊丘自然植物園を見学し、日向斜面ではなく日陰斜面に林ができていた景色を実見して大いに驚いた。我われが訪れた前日から前中先生や高見

事務局長が樹木の調査を始められたとこのことであったが、この度、前中先生よりその概要について報告があった。調査の手法、データの解析法と結果について懇切丁寧な解説が行われ、私はあたたかも学生に戻ったような新鮮な気分を味わうことができた。

調査は樹木の良く育っている斜面に20m四方の試験区を二つ設定することから始められた。次に区内に自生する胸高直径1cm以上の樹木に標識をつけ、その全てについて太さと高さを測定した。樹の種類は10種ほどで、結構バラエティに富んでいる印象を私は受けた。

一方、夏季には区域外の数本を伐採して樹齢を数え、さらに幹、枝及び葉に分けて重量を測定したのち、基礎的な解析を行った。その結果、測定データの解析には基本的に国内の森林と同じ手法が適用されることが分かった。例えば、トネリコ属の一種は胸高3cm程度でも樹齢は20年以上にもなるが、その太さ（2箇所）と樹高、葉の重量などから極めて相関性の高い計算式を導くことができた。つまり、樹種ごとに計算式を作っておけば、木の太さからその他のデータをほぼ正確に算出することができる。これは今後試験区の調査を継続するうえで極めて有用な知見である。

最後に植生の変化と山の保水力の関係について言及されたが、是非とも水量の測定が許可されるようになって欲しいものである。また、低木と草本の変化についても同時に調査を進め、自然林の総合的な評価につなげて欲しいなどと思いが会場を後にした。



50人の参加者で会場はいっぱいになった

GEN 自然と親しむ会 淀川で冬の鳥観察会 報告

2月15日のGEN自然と親しむ会には26人が参加して、淀川沿いを7km強、鳥を見たり説明を聞いたりしながらの散策を楽しみました。市街地がすぐそこですが、意外にたくさんの鳥を見ることができました。

ぽかぽかと春のように暖かく、コートが邪魔になるぐらいの日曜日、高田直俊さんに案内していただいて、淀川で冬の鳥観察会をおこないました。自然と親しむ会ではバードウォッチングは初めてでしたが、26人が集まりました。枚方市駅^{ひらかた}からまず^{あま}天の川沿いの道に入り、最初に聞いたのがウグイスの声。練習をはじめたばかりのたよりのない歌いっぱいでした。それが、淀川沿いを歩くうち、あちこちから、それなりにさまになった「ホーホケキョ」が競うように聞こえてきました。ほんとに暖かかったから、ウグイスもすっかり春の気分だったのでしょ。

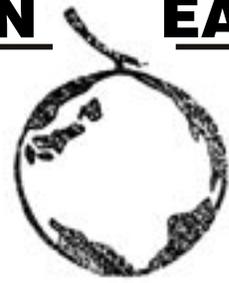
スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、カラスを判別できることが野鳥観察の第一歩、と事前にうかがい、「それぐらいならわかるかな」と思ったのが大間違い。こずえの先にとまっている小鳥、サイズはスズメなんだけど、感じが違うかも。色は逆光でわからないし……と思っていたら、「カワラヒワですね」。淀川沿いには、カワラヒワやシジュウカラ、シメ、ツグミやシロハラ、小型の猛禽、もちろんマガモなどの水

鳥など、町中ではあまり見かけない鳥がいろいろいたのです。最後に「鳥あわせ」をすると、この日見られた鳥はなんと36種類！ 遠くてよく見えなかったけれど、カワアイサやウミアサなどなかなか見られない鳥にも出会うことができたし、鉄塔に止まっている精悍なハヤブサもスコープで見ることができました。

残念だったのは、ベニマシコを視認できなかったこと。「ほら、あの木の先に止まってるよ」といわれる先に小さな影は認めたものの、双眼鏡を向けようともたまたましている間に飛び立ってしまいました。野鳥鑑賞で見るときれいな紅い小鳥（オスのみ。メスは地味です）、この目で見たかったのに……。

ほかにも亀の甲羅干しを見たり、人工ワンドを見学して淀川の開発と自然保護についてうかがったり、もりだくさんな1日でした。

バードウォッチングというと早朝とか山の中というイメージでしたが、冬鳥はそうでもないようです。枚方の市街地の淀川沿いというこの日のコースにもカメラやスコープをかまえた野鳥



市街地でも見かけるキジバト。よく見るときれいな鳥です。



カメラが気持ち良さそうに甲羅干し。

愛好家の姿がたくさん見られました。GWごろの早朝には、町中の緑地でも渡りの途中で休憩している鳥に会えるかもしれないと教えてもらいました。早起きして行ってみようかな。(東川)

本の紹介

橋本紘二写真集『農仕事 四季のかがやき』(写真・文/橋本紘二 農文協 2,800円+税 09年2月刊)

昨年の秋新潟に転居し、半農半撮影の生活をはじめた橋本さん。すっかり早寝早起きになり、朝はまだ暗くて農作業もできないので、これまで撮ってきた写真を整理、編集したそうです。

日本全国の農村をまわり、写真を撮りつづけて30数年。『現代農業』の表紙やグラビアをかざったなかから厳選した、日本の農村の姿です。ただきれいなだけではない、橋本さんならではのストーリーのある写真が満載です。



橋本紘二写真集『中国黄土高原～砂漠化する大地と人びと』(写真・文/橋本紘二 東方出版 6,000円+税 01年4月刊)

写真家・橋本紘二さんが6年間大同に通って撮りためたなかから厳選した作品をおさめました。農村、農業とむきあいつづけてきた橋本さんならではの写真集です。人柄がにじみでる文章も魅力。

※GENでは送料込み6,000円で取り扱っています。お申し込みはメール・FAX・ハガキで。送付先・部数を明記してください。残部僅少！

変貌する大同の市街地

高見 邦雄 (GEN 事務局長)



拡幅された大同市の道路。

猛烈な勢いで、大同が変わりつつあります。まずは道路の拡幅。去年は市街を南北に走る道路を中心に、いっせいに工事がおこなわれました。何本もの道路が通行不能になりましたから、残った道路にくるまが集中し、そこも大渋滞。マヒ状態でした。大同事務所のメンバーも通勤に何時間もかかったそうですし、私たちのプロジェクトへの見学・視察をおことわりしたくらい。

昨年12月には工事が完了し、すばらしい道路ができていました。それも広いところは片側4車線ですよ。そして樹高7~8m、直径25cmもある大きなトネリコが街路樹として植えられ、みちがえるくらいです。電柱が取り除か



ケーブルの地下埋設工事。



こんな大きな木を街路樹に植える。

れ、ケーブル類は地下に埋設されました。でも、まだ安心はできません。ことしもまた30本近い道路で一斉工事がはじまるそう。

道路の両側のビルや住宅が取り壊されました。「拆^{チヤイ}」とペンキで書きなぐってあるのは取り壊しです。「后退5米」とあっても車じゃないから后退は難しいでしょうけど、あとで建て増した部分の取り壊しなど。

大同の旧市街は「呂」の字のように、2つの城壁で囲まれていました。北にあるのを操場といい、軍隊が駐屯し訓練する場所。南側の広いほうは一般の市街地です。昔はレンガ張りでしたが、持ち去られ、土壁も風化がすすんでいました。それを復元するのです。前者の一边が1km、後者は一边が1.8kmもあり、高さは15mもあります。使われるレンガだけでも膨大なもの。城壁が復元されても間近まで住宅やビルがあったら意味はありませんから、内外とも城壁から50mまでは取り壊し、そこを公園ふう^{フウ}に整備するそう。

費用の出所が気になりますが、土地の使用権をお金に換える錬金術^{チンギョウ}だそうです。市政府などのある迎賓路の一等地は、日本ふう^{フウ}に換算すると1坪45万円にもなります。ディベロッパーが開発し、オフィスビルや住宅にして転売するわけですね。

幹線道路の両側は中層のビルが立ち並びますが、裏通りにはいると明・清代の平屋の四合院がたて込んで、悪臭がただよっていました。その再開発もすすんでいます。離れた場所に6階建てか、さらに高層の住宅を建て、同面積で交換します。そして城壁の内側は、2階建ての古代建築ふう^{フウ}に建て替えるそう。観光めあてですね。



大同の旧市街。



取り壊し予定の建物。

大同の名所はなんといっても雲崗石窟ですが、それ以外にもたくさんあって、「地下の文物は西安をみよ、地上の文物は大同をみよ」というくらい。といっても、大同人の自慢話ですので、全国で通用するかどうかはわかりません。ところが周囲の環境がよくなく、埋もれていたんですね。雲崗石窟だけだとせいぜい1泊ですが、数か所にふやせば2泊になります。そうになると観光客が落とすお金も増えます。石炭の街・大同が、観光と2本足になることをめざしているのです。

気になるのは世界的な経済危機の影響がどこまで及ぶか、です。中国経済のこれまでの牽引力は輸出、消費、投資の3本柱でしたが、大同では輸出はもともとゼロに近く、消費も低かったもので、いまのところ影響はほとんど出ていないとのこと。



高層マンションも次々と建設されている。

いまあぐできる GEN への協力

■会員になってください!

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になって GEN の活動をささえてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをすすめてください。

■みみずく基金にご協力ください!

1口1万円で寄付を募っています。A. 環境林センター、B. 霊丘自然植物園、C. 白登苗圃、D. かけはしの森の4つからお選びください。指定のない場合は、事務局で決めさせていただきます。

■緑化基金、運営カンパもむ

金額はいくらでもけっこうです。GEN への寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。みなさんの応援をお願いします。

*みみずく基金、緑化基金の20%は事務管理費になります。

■ビデオ『よみがえる森』ご購入を!
 沙漠化、水不足など黄土高原の環

境問題と GEN の緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN 会員価格は4,000円(送料別途)です。教材にも好適。小学校高学年から。

■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

■外国コイン・商品券などを集めています

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務局の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連



絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

* * * * *

【GEN は認定 NPO 法人です】

2005年6月から国税庁から認定 NPO 法人の認定を受け、07年6月からは第2期目の認定が決まりました。GEN への寄附金は寄付金控除の対象となります。個人の場合は「寄付金額 - 5,000円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に算入することができます。相続・遺贈による寄附は相続税の課税対象から除かれます。

GEN の場合寄附金となるのは、緑化基金・運営カンパ・みみずく基金と、会費のうち1口以上の部分・賛助会費から12,000円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

書き損じはがき、使用済み切手等 ご協力に感謝

GEN では、使用済み切手、書き損じはがき、外国紙幣・コイン、商品券等のご協力をみなさんに呼びかけています。この1年間でたくさんの団体、個人のみなさんから提供していただきました。

書き損じはがきは52,292円の切手と交換しました。郵送料に使わせていただきます。

使用済み切手、外国コイン・紙幣、商品券等は売却して16,660円になりました。中国山西省大同市の緑化協力活動に使わせていただきます。

今後ともみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。



GEN 自然と親しむ会 比良山馬が瀬山で 森づくり体験

- 日時：5月24日(日)10時から15時ごろまで
 - 場所：滋賀県比良山麓の馬が瀬山国有林
 - 集合：10時 JR 湖西線「北小松」駅前
 - 指導：NPO 法人自然と緑
 - 作業内容：スギの間伐・皮むき、下草刈り、自然観察等
 - 定員：20名(先着順)
 - 参加費：700円(保険料を含む、交通費は含まない)
 - もちもの：昼食、飲み物、敷物、雨具、タオル、軍手、作業のできる服装・靴
 - 申込締切：5月20日までに GEN 事務所まで
- NPO 法人自然と緑が森づくりを進めている馬が瀬山国有林での作業に参加させていただきます。
- 昨年はおやすみしましたが、毎年こ

の時期に参加しています。少しづつ山が整備されていく様子がわかります。

それぞれの体力にあった作業を指導していただけますので、どなたでも参加できます。

GEN 事務所から お願い

春は新しいスタートの季節。進学・就職・転勤などでお住まいが変わることも多いと思います。住所・電話番号・メールアドレスなどの変更がありましたら、GEN 事務所にご一報くださるようお願いいたします。



植物屋のこぼれ話 (続編) その24

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

●森や林や田や畑

小学校唱歌に「森や林や田や畑」という歌詞があったのを覚えているが、森と林がどう違うのか調べてみたがはっきりした区別がない。そこで勝手に作ってみた。こんもりと小高いところに木が茂っていたら森で、平坦な場所に茂っていたら林である。こんなことを書いたら本当になってしまうかもしれない。「田や畑」の方は水を張るか張らないか、で決まるらしい。しかし、中国の山西省では田は平坦な畝で、畑は曲がりくねったところ、つまり山畑であるという。しかし、同じ中国でも雲南省では水を張るのは田で、畑は焼き畑の跡だという。広辞苑によると「林畑」という農法があったらしい。雑木林を開墾して農作物を栽培し、何年か放置して雑木林に戻してまた開墾する、これを繰り返すのを「はやしばた」というらしい。焼き畑農業と同じやり方であるが、違うのは原生林を開墾するのではなく、二次林つまり里山をつかう点である。森や林や田や畑も時代とともに変わっていくものらしい。

●疎林と密林

密林はよくつかわれる言葉だが疎林はあまりつかわれない言葉である。樹木の生えている密度の濃淡の違いであるが、木が少ない場合は「疎林草原」いわゆるサバンナである。疎林はウッドランドといい、低木だけになると低木林スクラブと呼んで区別するが、どんな場合も境界のはっきりしない中間型があるようだ。しかし、森や林の質的な区分は「疎」と「密」だけでなく、種類数と密度の掛け合

わせであり、それに高さが加算される。種類数も密度もさらに高さも最も大なのは熱帯多雨林である。高さ30mを超える高木の下にやや小さい高木が、さらにその下に小さい高木が、そしてその下に低木があり、その下にシダやコケなどの林床植物が生えている。このような森林を多層構造の森林という。この反対は単層構造の森林だが、雨の少ないところと寒いところに出現する森林である。その代表はアマゾンとシベリアの森である。日本の森は多層構造であるが北へゆくほど単層に近くなり、北海道には単層構造の森が存在している。

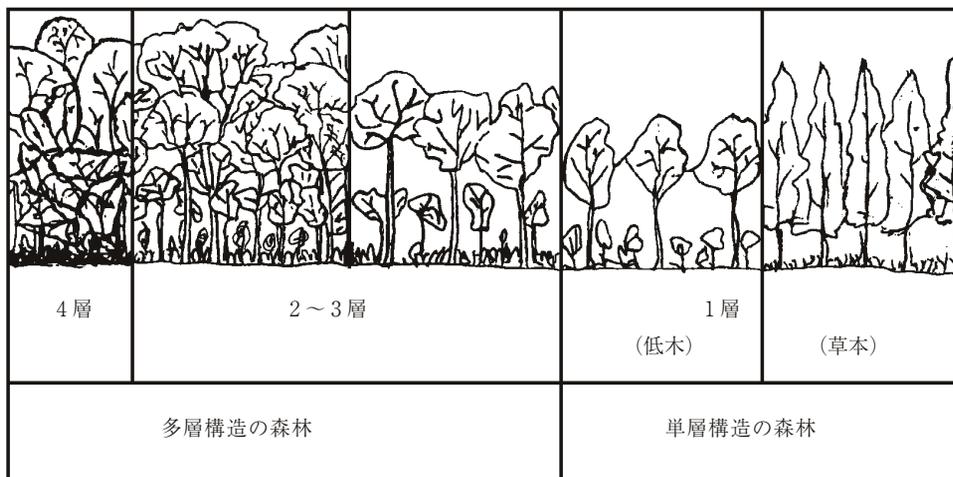


図 単層構造と多層構造の森林の立体模式図

ゆの人の人 この人

すやま 陶山 正さん (山西省太原)

◇鎮守の森を守りましょう

遠い昔から我々の祖先は木を伐ったり焼いたりして、水田や畑を作りました。その一方、必ず聖域として“ふるさとの森”を残したわけです。愚か者が森を破壊しないように、神社やお寺、祠やお地藏さんを祀って、この森の木を伐ったら罰が当たるといふうにしてきた。それが環境を守り、万一の場合の逃げ場となりました。

そこに暮らす人々の拠り所となりま



共存から学んだ叡智であります。何百年も何千年も共に生きてきたその土地本来の森が一番大切です。

本物の森は、地震、火事、台風にもびくともしません。1995年の阪神淡路大震災のときにも証明されました。震災後10日ほど後に入ってみました。瓦礫のなかを調査すると、最新の技術で作った高速道路や建物は倒壊しているのに対し、小さな公園の樹木や神社の森はそのまま残っていました。神社

した。これは長年そこに住んできた日本人が自然との

の森の鳥居も社殿も崩壊しているのに、カシノキもヤブツバキも、1本も倒れていません。アラカシの並木のあるところではアパートも残っていました。並木が火を遮ったのでしょう。樹木がいかに人の生命・財産を守る重要な役割を果たしているか痛感しました。

しかし残念なことに、鎮守の森は激減しています。戦前神奈川県には2850か所ありましたが、現在では40か所しかありません。

無秩序な、自然を無視した計画等が、このような結果をもたらしました。これからの子孫のことを考え、次の世代の人のためにも考え、鎮守の森を守り、いかに保護していくかが、我々の大きなつとめでもあります。

黄土高原史話〈44〉

「千年、河清を俟」たなくても

谷口 義介（摂南大学教授）

少しだけ前回^{さかのぼ}に溯ると。

「黄河の水が澄むことなどありえない」という通念は、「黄河」という名が出てくる以前、単に「河」と呼ばれていた春秋時代、すでに定着^まから、それを待つのは無駄な^たこと、の譬えとして用いられていたわけ。前漢の初めに「黄河」という名が初出。後漢に入って張衡（78～139）という科学者・詩人も、「河の清めるを俟つも未だ期はず」（埤田賦）と歌っている。

ところが、彼の死後20年ばかりたった桓帝の延熹八年（165）、「夏四月、濟陰・東郡・濟北に河水清む」（『後漢書』孝桓帝紀）また、翌九年（166）にも続けて、「夏四月、濟陰・東郡・濟北・平原に河水清む」（同上）という現象が。こりゃ何か不吉なことの^す前ぶれではと、襄楷という学者が桓帝に上疏。「河なる者は諸侯の位なり。清なる者は陽に属し、濁なる者は陰に属す。河は当に濁るべきに^{かへ}而るに反って清む者は、陰、陽と為らんと欲

し、諸侯、帝と為らんと欲するなり」と、陰陽説に基づいて、警戒すべきを論じている。

ところが、このあと東晋の王嘉（？～390頃）の『拾遺記』に、「黄河は千年に一たび清む、至聖の君、以て大瑞と為す」

とみゆ。「千年、河清を俟つ」というフレーズの出典でしょうか。それはともかく、ここでは「河清」は目出度い^{すいちよう}ことの瑞兆に。そこで南朝・宋の元嘉二十四年（449）、

「夏四月、河・濟ともに清む」（『南史』宋本紀・文帝）

という現象が起きたとき、鮑照（413頃～466）がこれを吉兆だとして「河清頌」なる詩を作っている。唐代には張文という人が、太平の瑞祥とみなして「河清歌」を。

めったにないことなので、吉・凶両極端に解釈されたのでしょう。

ところが「河清」という現象、歴史記録を調べてみると、結構起っているのです。



上掲した後漢の桓帝延熹八年（165）を皮切りに、清末の宣統元年（1909）までの1744年の間、実に54回も。約32年に1回という割合です。

そのあとでは、1935年、山西省の石楼で水が澄み、河底が透けて見えた、と。昨年、つまり2008年にも黄河の水は澄みました。ネットでは、吉兆だとか凶兆だとか、^{かまびす}喧しい議論が。

「河清」といっても上澄み程度のことで、部分的・短期的な現象でしょうが、黄帝の子孫で黄色をシンボル・カラーとする漢民族。黄河の水の色に対し、過剰反応を示すのかも。

しかし、より本質的な問題は、なぜこうした自然現象が起こるのか。

（以下、次号）

2009 夏の 黄土高原ワーキングツアー 予告

昨年は北京オリンピックにともなう混雑と物価の高騰をさけて中止した夏の黄土高原ワーキングツアーですが、今年は復活します！ 黄土色一色でマツのくすんだ緑しかない春とは違い、広葉樹も緑の葉を茂らせ、畑も青々として、そこかしこに高原の花が咲き乱れる黄土高原の夏を、村の人たちといっしょに補植に汗を流しながら楽しみましょう。

詳細は次号でお知らせします。8月1日（土）～8日（土）に実施を予定しているの、参加希望の方はスケジュールにいられておいてください。

編集後記

今回はこんなところに登場です。

前号の表紙、応県の本塔の写真を見て、と会員の椎田孝一さんから分厚いお便りをいただきました。そういえば、最初にご連絡をいただいたのも、新聞のGENの紹介記事に載った三嶺村の写真がきっかけでした。

日中戦争で大同のあたりに行きました、ひどいこともしました、GENが大同で緑化協力していると知りぜひ協力したい、と西口さん（故人）と連れ立って事務所に来られたのです。正直なところ、戦友会と聞いて、私は最初ちょっと構えていました。でも、誠実で真摯なお二方に、すっかりイメージが改まりました。戦友会の仲間にも呼びかけて、寄付や使用済みテレカなどを集めてたびたび送っていただきました。

お便りには、戦友会に協力を呼びかけるにあたって、反発する人もいずいぶん苦勞されたこと、また、それ以上に、応援・協力してくれる人がたくさんいて、力づけられたことなどが書かれていました。

協力してくださる方それぞれの思いをありがたく受け止め、しっかり大同に届けたいと思います。（東川）





六甲奨学基金のための
第12回古本市

阪神大震災の年、アジアからの留学生・就学生を応援しようと始まった六甲奨学基金。その募金活動の一環である古本市は12回目となりました。

- 受付期間：3月1日～31日まで（この期間以外は受け付けられません）
- 送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

【注意】

- ・汚れ・破れのひどいものは不可。
- ・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、文学全集、百科事典等は不可。
- ・お送りいただいた本は返せません。

●送り先・問合せ先

(財) 神戸学生青年センター古本市係
〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1
tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878
e-mail : info@ksyc.jp URL http://ksyc.jp

★六甲奨学基金のための第12回古本市

- 3月14日～5月15日まで毎日開催

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

本の整理などのボランティアも募集しています。上記までお問い合わせください。

nature osaka eco-tour
ツバメ調べ隊

福岡賢造さんと三重県青山町（現伊賀市）の町並みを歩く

三重県青山町の駅前には伊勢参りの街道筋で大きな家が並び、一軒に3～6個もツバメの巣がかかっているそうです。日帰り温泉を楽しむ企画もあります。

- 日時：4月29日（水・祝）午前10時30分から
- 集合：近鉄大阪線青山町駅改札口
- 場所：三重県伊賀市阿保 初瀬街道筋
- 案内：福岡賢造さん
- 費用：3,500円（料理旅館伊勢慶で昼食）
入浴料別途550円
- 募集：15人
- 問合せ・申込み：(社) 大阪自然環境保全協会（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13-202 tel. 06-6242-8720 e-mail : office@nature.or.jp）

土佐文旦をどうぞ

高知の田中さんから、ブントンのご案内です。春の香りをお楽しみください。

【土佐文旦】

A	3L/4L	5kg	5～9玉	3,800円
B	2L	5kg	10玉前後	3,300円
C	L	5kg	12玉前後	2,700円
D	M	5kg	14玉前後	2,000円

○送料別途。関西630円、関東840円（20kgまで）。

○10kg箱もあります。

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの会員』とひとことそえてください。

【注文先】 田中農園 田中隆一さん

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 (tel/fax 0887-29-2500 E-mail : tanakan@quolia.ne.jp)

